

内容：「頭の体操」「冬を楽しく過ごすには」「リズム体操」

- ・地区の敬老祝福事業に駐在さんによる「安心安全に生活するためのアドバイス」の講話

## 2) 平成 24 年度の取り組み

24年度は、学生の提案や地区住民が考えた取組として、地区で自主的に事業が実施されている。



### ①「ジオ・カフェ」の開設 毎週金曜日 午後1時～5時まで 居組地区公民館和室

誰でも自由に気軽に立ち寄り、お茶を飲みながら、誰でも語り合う、憩いの場として開設した。

ジオ・カフェ  
OPEN!!

### ②こころといのちを支える地域づくりの継続事業の打合せ

平成 24 年 7 月 6 日

参加者：区長、すこやかクラブ役員、豊岡健康福祉事務所、町健康課



住民による打合せ

### ③こころといのちを支える地域づくりの継続事業

(タウンミーティング「みんなで語ろう居組の未来」の開催)

関西国際大学の協力で居組地区が主体となり実施した。住民3名が、居組の課題を発表。4グループに分かれ、学生と課題について話し合いした。

座長はすこやかクラブ会長が行った。発表者は民生委員、すこやかクラブ会員、公民館長で、「地域で困り感を持った人に、民生委員のみでなく地域の人がどのような支援ができるのか」「地域の人がもっと協力してほしい」「高齢者に普段から声かけをし、顔つなぎをする関係づくりができているだろうか」「ジオ・カフェの利用者が固定化してきた。もっと異世代間交流も視野に入れたらどうか」という発表内容だった。



### ④すこやかクラブによる一人暮らしのつどいの実施

この事業は、平成 23 年度に健康課がいずみ会（食生活改善推進員）の協力を得て高齢者の食育事業として実施したが、大変好評であり、継続してほしいとの要望を受け、平成 24 年度からすこやかクラブの予算で年 2 回事業実施されることになった。

## 【事業実施にあたっての運営体制】

- 1) 平成 23 年度は、県のモデル事業であり、県庁、大学、健康福祉事務所と打合せを行い、役割分担しながら実施した。大学との調整は県庁と健康福祉事務所、地元との調整は町健康課が中心に行った。
- 2) 町内でも、多部署が連携して事業が実施できるよう、健康課が中心になり、社会教育課、地域包括支援センター、社会福祉協議会、駐在とも打合せをして事業に協力してもらった。
- 3) 地区では区長をトップに各町内会長、すこやかクラブ、民生委員に事業説明を行い、地区の事業責任者は区長に担ってもらい、事業の具体的な窓口をすこやかクラブ会長として、地区全体での取組とした。

**【事業の工夫点】**

- 1) 自殺対策のための事業ということに住民は抵抗感を示されたので、地域が課題と考えている閉じこもりや安心して暮らせる「地域づくり」を前面に出して事業を実施した。
- 2) 居組地区からの要望により、県のモデル事業だけでなく、年間を通じて町や関係機関がかかわる事業を実施した。駐在さんによる「安心安全に生活するためのアドバイス」や、豊岡健康福祉事務所、健康課、地域包括支援センターで実施した介護予防事業「健康づくりのつどい」、「一人暮らしのつどい」にいずみ会（食生活改善推進員）協力による高齢者の食育事業を併設して実施した。
- 3) 学生が来町する前に、その都度区長さんはじめ、地区の役員と打合せ会を持って、この事業の趣旨を理解してもらい、住民が主体的にこの事業を実施できるようにすすめた。
- 4) この取組が参加者だけでなく、地区全体、また町全体に周知できるよう広報を行った。「学生キャラバンによるタウンミーティング」当日や報告会には、企画課と連携をとることで広報担当が取材に参加し、町の月刊広報に取組が掲載された。また、地元の新聞社の取材もあり、但馬版にはこの取組が写真入りで掲載された。月1回発行の「居組地区公民館だより」には、地区公民館長編集によるこの取組の詳細が写真入りで掲載され、地区全体に周知された。
- 5) 住民が参加するすべての事業に、グループワーク手法を設けたことで、住民が思っていることを言葉にする力をつけ、言葉にすることで、みんなで共有することができた。
- 6) 「まちおこし」の視点も入れて地域の活性化を図ることで健康づくりにつながるという手法を取り入れ、居組の魅力を学生が引きだした。

**【事業成果、その他特筆すべき点】**

- 1) この事業をとおして、高齢者が自分の思っていることを言葉にできるようになり、ご近所同士の絆が強くなった。
- 2) 事業終了後に、住民が主体になって、地域で誰もが気軽に集える「ジオ・カフェ」を開設。  
（毎週金曜日午後1時～5時）最近では、こどもの参加もあり、高齢者との交流の場にもなっている。
- 3) 平成24年度は、居組地区の住民が主体となって、事業を実施。行政は協力。学生キャラバンを取り入れたこの事業が、自主的な地域づくりの原動力となった。
- 4) この事業に対して開始前と終了後では住民の受け止め方がかなり変化した。自殺対策ということに対して、プライバシーの関係はあるが区民の情報をお互い共有できる体制づくりが必要で、そのことが地域の絆と連携を深め、活性化を高めることにつながり、地域づくりは大切であるという意見に変

わった。

- 5) すこやかクラブ会長より、平成24年度のすこやかクラブの事業計画に、グループワーク、高齢者が自分の意見を言える場や一人暮らしへのきめの細かい見守り、防災意識を高めること、楽しく気軽に集える場を取り入れた。
- 6) 住民同士のつながりの強さや自然の豊かさ、貴重な文化財などを生かした学生からのまちづくりの提案に、住民が居組の良さを再認識し、行事の見直しにもつながった。当初は、学生の勉強材料、実験台になることへの抵抗感があったが、事業終了後は、学生に勉強材料にしてもらい、「安心して暮らせるまちづくり」の提言への感謝の気持ちに変わり、学生の応援団長になるという言葉もでた。
- 7) 地域では「自殺」に対する偏見もあり、「自殺」を前面に出すことに対する住民の抵抗は大きかったが、「自殺」という言葉を強調せずに、「地域の保護因子」に着目した取り組みをすすめることで、抵抗感なく、事業をすすめることができた。また、町の社会教育課と連携をとることで、うつや精神疾患への偏見や差別をなくす等人権教育の立場での助言や、先進的な取り組みをされている地域に学生が入って地域づくりを進める上での情報提供などの助言をもとに事業を実施することができた。
- 8) 活動をとおして、地域の活性化と人と人とのつながりが強化され、新たな「まちづくり」や「まちおこし」の動きにつながった。

(問合せ先) 兵庫県美方郡新温泉町 健康課健康推進係  
TEL:0796-99-2940  
E-mail:hosen@town.shinonsen.hyogo.jp  
URL : <http://www.town.shinonsen.hyogo.jp>